

祝卒業

第124回 豊小学校 卒業証書授与式 3月15日

ご卒業おめでとうございます

卒業生 98名が巣立っていきました



今年も年が明けても積雪が無く、穏やかな1年のスタートとなりました。時折青空も見え、福井が雪国であることを忘れる日々もありました。しかし、寒さは例年のように厳しく、一日も早い春の到来を待ち望んでおりましたが、日一日春めき万物が躍動を始める季節を迎えようとしております。去る、3月15日(水)福井市山田副市長様、市議会皆川議長様をはじめ、地域のご来賓の方々、教育振興会会長、他役員様ならびに多数の保護者の皆様にご臨席いただき、第124回卒業証書授与式を滞りなく挙行することができました。卒業証書の授与では、にっこり微笑む子、口元をキュッと引き締める子、「おめでとう」の言葉にありがとうございますと、返事を返してくれる子など、どの子も堂々と立派に卒業証書を受け取ることが出来ました。卒業式の歌では、卒業生から「旅立ちの日に」合唱の歌声が体育館いっぱいに響き渡りました。また、在校生の心のこもった感謝の歌声が返され、会場は厳粛でかつ温かい雰囲気、立派な卒業式となりました。これまで、皆様方からいつも変わらぬご理解・ご協力をいただきまして深く感謝したしております。今後の卒業生のご活躍とご多幸をお祈り申し上げると共に、これからも本校の子どもたちに温かいお心遣いを賜りますようお願い申し上げます。ありがとうございました。



【 校長式辞(抜粋) 】

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。これで皆さんは小学校の課程を立派に修了した訳です。今ほどひとりひとりにお渡ししました卒業証書には、皆さんが本校6年間で学んだことや、成長してきたことのすべてが込められており、六年間立派に学校生活を果たし終えた証です。この卒業証書を大切に、みのり小学校でこれまで成長した今の自分に「自信」と「誇り」をもち、中学校に進んでください。

さて、わたしと皆さんが過ごした日々は、5年・6年生の2年間でしたが、大変元気が良く、明るい学年で、ここぞと言う時にはスイッチが入りリーダーシップを発揮して学校を盛り上げてくれました。この1年では、絆を強くした修学旅行、みんなの心が一つになった連合音楽会、暑さに負けず頑張った体育大会や連合体育大会、立派な態度で参加した本校での器械運動交歓会など、どの活動にも一生懸命に真面目に取り組む姿が印象的でした。その集大成として、先日の6年生を送る会でのパフォーマンス「RPG感謝を込めて」でのダンスと歌の発表は圧巻でした。また、勉強にも運動にも両方に頑張ることの大切さを、態度で後輩に示していた事も立派でした。この6年間の様々な活動を通して、心も体も見違えるほど大きく、立派に成長したことを誇らしく思います。皆さんが本



校の校風・伝統を今年も一回り大きくして繋いでくれました。門出にあたって、皆さんにはなむけの言葉を贈ります。

まず一つは、高い志をもって自分を磨き「一隅を照らす人になってほしい」ということです。



一隅とは、「かたすみ」ということですが、「一隅を照らす」とは、「家庭や学校・社会の中で、自分自身が置かれているその場所で精一杯努力し、光り輝く事の出来る人こそ、何物にも代えがたい尊い事である」という意味です。つまり、その場にいないてはならない人、役に立つ人になろうということです。自分の置かれた場所や立場でベストを尽くして欲しいということです。

昨年の夏のリオ・オリンピック女子卓球で、16歳の「平野みう」選手は、会場にまで行きながら福原・石川、同い年のライバル「伊藤みま」選手のサポートメンバーになり、大会出場ができませんでした。しかし、彼女は練習相手や球拾いを積極的に行い、自分の役割を果たして、団体銅メダル獲得に陰から貢献しました。その後、その経験が秋にはワールドカップで、そして1月の全日本選手権ではエースの石川佳純選手を圧倒し、史上最年少の16歳で優勝なしとげました。この平野選手のように、大きな灯台となって「千里を照らす」人生、国や世界の動向に影響を及ぼす事の出来る人物になることは素晴らしいことです。しかし、誰もがなれるわけではありません。たとえ小さくても良い、自分の個性と能力に見合った明かりを、「こここそ自分の持ち場だ」と信じる場所に掲げ、周りを少しでも明るく出来る人になってください。大いに活躍することを心から願っています。

そして、もう一つは、「ふるさとみのりを忘れず、夢の実現のために周りで支援して下さる多くの皆さんへの感謝の気持ちを持っていて欲しい」ということです。

人は一人では生きていけません。皆さんも人と関わりながら、支えられながら、生かされながら生きていくのです。これからも、自分を取り巻く周りの人に対して、感謝の心を常に持って欲しいと思います。そして、豊かな人生と同時に、このふるさと「みのり」を支える人になってくれることを心から願っています。ふるさとは、心の中にあるのです。心の中のふるさとは、それを思い出すたびに自らを励ましてくれる日々のことです。また、「ふるさと」とは、そこに戻るたびにもとの自分に出会える場所です。自分を取り戻すことの出来る場所です。ここ豊小学校も、みなさんのふるさとはです。



昨年、豊地区に青年団が結成されました。また、今年の豊地区成人の集い式典後、母校の豊小学校に会場を移して、学生時代を振り返り、絆を確かめ合い、将来の夢を語り合う機会があり、ふるさとを思う心が一つになりました。ここ豊地区は、地域全体が、皆さんを「地域・社会の宝」として見守っています。また、皆さんの後ろには、在校生の仲間や先生方、家族や地域の皆さんが、いつもいっしょにいることを忘れないでください。どうか、毎日感謝の気持ちを持って、中学校に行っても、自分を信じ、仲間を信じて元気で頑張ってください。

卒業祝い品贈呈式

3月13日、卒業式に先立って豊教育振興会より卒業お祝い品として『多機能ペン』が卒業生に贈られました。米岡教育振興会長様からは、「高い志を持って勉強し視野を広げ、中学校へ進学しても頑張ってください。」と励ましの言葉が卒業生に送られました。卒業生の代表からは、「卒業記念品ありがとうございます。中学校でも勉強を頑張ります。」と、元気にお礼の言葉を返していました。

高度・複雑化する社会に向けてスキルアップしよう



《 1年間のご理解・ご協力に御礼申し上げます 》

保護者の皆様、地域の皆様、この1年間大変お世話になりました。お陰様で、様々な活動を行うことが出来ました。新年度も、引き続き子供らの健やかな成長を願い、実践を進めて参りますのでよろしくお願い致します。

